

こども通信

ようやく春がやってきました。桜の開花ももうすぐ。

新学年も始まり、新しい生活へのステップアップを心待ちにしていることでしょう。

しかし、ロシアのプーチン大統領が起こしたウクライナ侵攻は1ヶ月以上が経過しているのに、まだ終息に至っていません。ロシアからの侵略戦争ですから、その解決はウクライナからの撤退です。



ある意味で被害者と言えるかもしれません。兵士は大義なき戦いで命を落とし、まるで大死です。

この間に（そして今も、これから）多くの死傷者が出ています。どれくらいの子供たちが、傷つき、殺されれば戦争は終わるのでしょうか。

ウクライナが被った被害は甚大で

す。人も物も。勝利を勝ち得ても、復興は容易ではありません。

被害はウクライナだけではなく、侵略しているロシアの側も、

今後、破壊力の強い「非人道的兵器」が使われるかもしれない（人道的な兵器があるはずもないですが）。

もし核兵器が使われたなら・その被害は、全世界的な規模になるかもしれない。人類の滅亡も起こりうることです。絶対に核兵器を使わせ

てはいけません。核爆弾の被害国である日本が、核兵器を使用しないことを、世界に向かって強く訴えるべきです。

核爆弾の被害国である日本が、核兵器を使用しないことを、世界に向かって強く訴えるべきです。

感染症情報

新型コロナウイルス感染症の発生数は全国的には減少傾向ですが、当地ではピークアウトしたとは言えず、まだ収束の方向は見えていません。オミクロン株による第6波は、これまでと違って子どもたちの間で感染が広がっているのが特徴。軽い症状で済んでいるとはいえ、ワクチンのない世代ですし、マスクなどの予防策が十分にできず、また密着して生活することが多いので、なかなか対策ができません。一方で、あまり過度に行動制限することはできません。徐々に感染が下火になることを待っていることになるでしょう。

オミクロンはさらに変異株も起き変わりつつあるとのこと。今後第6波がまた勢いを増すことも懸念されます。「蔓延防止等重点措置」が解除されましたが、引き続き十分に注意してお過ごしてください。

感染性胃腸炎は少数ですが見かけます。急に吐いたり下痢をしたりするウイルス性の感染症で、ノロやロタが主です。子どもは脱水や低血糖を起こすことがあり、ぐったりしている時はすぐに受診してください。

このほかでは溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎などが少しずつ発生があります。いずれも咽頭痛と発熱が特徴で、登園停止の扱いです。溶連菌感染症には抗菌薬による治療をおこないます。

ヘルパンギーナや手足口病といった夏かぜも少数ですが見かけます。コロナ禍で、感染症の流行パターンは変化してきました。

そして、国家間の争いのための武力を用いるのはもうやめましょう。それが日本国憲法の根本的な立場です。

水曜午後はコロナワクチン専用

- 今月より水曜午後は休診としました。
- 新型コロナ予防接種を集中的に行うための対応です（当面は5～11歳小児の1、2回目接種を行っています）。
- ご理解いただきますよう、お願いいたします。

今月の予定

院長・副院長出務

- 上越市立谷浜小学校健診 19日
- 上越市夜間診療所勤務 20日（副院長）
- 上越有線放送「健康ライフ」19日
- FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
- 毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報（毎週）

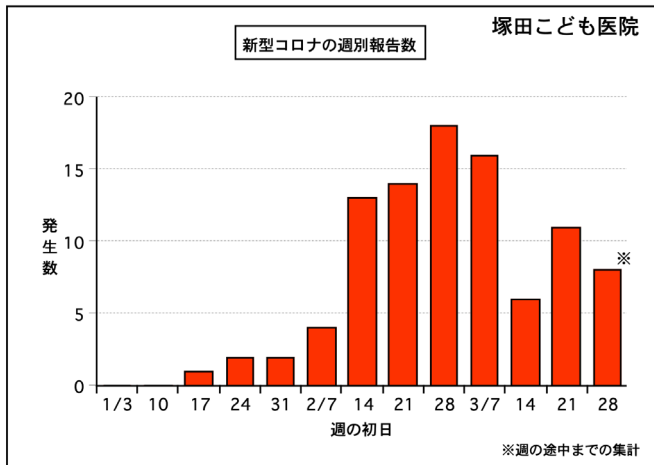
- FM上越：木曜午後1:35頃～
- 上越有線放送：月曜午後6時～（番組内）
- 医院ホームページ内

新型コロナウイルス

第6波はまだ続く！

新型コロナウイルスの第6波流行がまだ続いています。当地では1月に始まり、2月は高水準になりました。3月6日で「蔓延防止等重点措置」が解除されましたが、その後も発生は高止まりしています。3月下旬には、むしろ流行が再拡大しているような様子も見えています。

先月号で「第6波は手強い」と書きましたが、これほど厄介だとは思っていませんでした。



●子どもが発生の中心

ご承知のように、第6波は子どもたちに患者が多発しています。オミクロン変異株の特徴です。

グラフは、当院が新型コロナウイルス患者として保健所に届け出た数です(週ごとに集計)。年齢は示していませんが、大部分は小児患者です。1月中旬に始まり、2月下旬でマックスになり、3月は減少傾向ではありますが、収束には至っていません。

一方で、当院では重症化したコロナ患者さんはいませんでした。それどころか、熱が出ても微熱だったり、熱すらなかった子もいます。他のウィルス性疾患よりもはるかに軽い印象です。

「新型コロナウイルスは風邪だ」と言う人たちがいますが、そうではなく、むしろ「風邪よりも軽い」と言えるかもしれません。

もちろん侮ることはできません。子ども自身は軽くても、家庭などを通して大人に感染させてしまうリスクがあります。特に高齢者や基礎疾患をもつ人にとっては、時に致死的な感染になる危険性があります。

●子どもが軽い理由は？

新型コロナウイルスの初期は、子どもはかかりにくかったです。この頃は、ウィルスが細胞にくっつくレセプターが子どもでは上気道に少ないのがその理由だと言われていました。

オミクロン変異株になり、むしろ子どもはかかりやすくなりましたが、でも軽症で済んでいます。理由は諸説あります。

罹患後の子どもには、ウィルス表面のスパイクに対する抗体が高濃度になっている一方で、ウィルス内部のタンパク質に対する抗体はさほど出ていません。つまり、コロナウィルスが侵入したあと、早期にそのスパイクに抗体がくっつき、ウィルスの増殖がさほどおきていないと考えられます。

また、子どもの気道粘膜(特に上気道)には多種のインターフェロンが高濃度に存在していて、これがウィルス感染を予防しています。普段から風邪(その大半はウィルス感染です)、新型ではないコロナウィルスも含まれます)をよく引くことで、

新種のウィルスへの防御効果があるというのです。

私はよく「子どもは風邪の子(風ではなく)」と言っていますが、じつは時々風邪を引くことも悪くはないようです。

●積極的予防で子どもの解放を

子どもたちが新型コロナウイルスにかからないようにするために、親御さんも園や学校も多大な努力をし、過剰とも言える対応に苦慮しています。でも、それをいつまですべきなのか、疑問に思います。

大人はワクチンで重症化予防が出来ます(追加接種をぜひ受けてください)。5歳以上の子どももワクチン接種が始まりました。こういった積極的な対策(ワクチンによって集団免疫を作り、維持する)を徹底することで、小さな子どもたちが仮に新型コロナウイルスにかかっても、あまり事を荒立てないようになるかと思っています。

このままでは、子どもの「風邪を引く権利」が侵され、別の大きな問題が生じてきかねません。